

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	学校名 : 草野中学校 対象学年 : 2学年 クラス(人数): 5組(82人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育科・保健体育科) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実戦力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。
5 取組内容	バレーボール8時間+シットイングバレーボール5時間 (計13時間) シットイングバレーボールの内容 ① オリエンテーション ② 座る姿勢と動き方・簡単なボール操作 ③ ペア・グループでのラリー・円陣パス ④ 簡易ゲーム1 ⑤ 簡易ゲーム2 *オリエンテーションではシットイングバレーボールの映像資料を用いてイメージを持たせた。 *簡易ゲーム1と2では人数やコートの高さ・ネットの高さ等ルールを変えて実施した。 *バレーボールの授業は昨年度も実施し、基本技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)についてはある程度習得済みであった。
6 主な成果	・パラスポーツに関する興味や関心を持たせることができた(行う前はパラスポーツの種類、シットイングバレーボールそのものや名称すら知らない生徒がほとんどだった。また、千葉市でオリンピック・パラリンピックが開催されることすら知らない生徒が多かった。) ・今まで取り組んだこともなく新鮮だったため、より興味や関心を持ち、楽しみながら取り組むことができた。 ・ある程度の基本技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)

	<p>を身につけていた状態で行ったため、1回での返球もOKにするとそれなりにラリーが続くこともあった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料を用いて、シッティングバレーボールの様子や座り方、動き方などイメージを持ちやすくした。 ・4種類のボール(正規のボール、レクリエーション用のソフトバレーボール、ゴム製のソフトバレーボール、ビニル製のビーチバレーボール)を使うことで、技能の発揮やラリーが続きやすくなるようにボールを選択しながら取り組んだ。 ・簡易ゲームではバドミントン用の支柱とネットを使用した。 ・座った状態で動いてプレーすることが難しかったため、コート of 広さを人数に合わせて少し狭く設定した。 ・ラリーが続くようにネットの高さを少し高めに設定した(ネットが低すぎると返球が速いボールになってしまい、ラリーが続けにくい)。 ・様子を見ながらチームの人数を増やし、床にボールが落ちにくくした。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・体が硬く、座った状態を安定して取れない生徒が多かった。 ・ラリーが続くように4種類のボールを用意したが、ゴム製のソフトバレーボールやビニル製のビーチバレーボールは力加減が難しく、慣れるまでに少し時間がかかった。 ・オーバーハンドパスの技能はそれなりに使えるが、アンダーハンドパスは床からの距離が近いので、技能が発揮しづらかった。また、同様にアンダーハンドサーブも行いづらかった。 ・座った状態での移動や移動してからプレーすることがとても難しかった。移動してプレーするのではなく、倒れこんだりするなど無理な姿勢でその場から動かずにプレーすることが多かった。また、無理な姿勢でプレーするため、片手や寝た姿勢など基本技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)をうまく使ってプレーできなかった。 ・後方への移動は素早くできたが、横や特に前方への移動が難しそうであった。 ・運動量が少なく、ほとんどボールのこないポジションもあった(後衛など)。活発な生徒にとっては少し物足りなさがあった。 ・技能の評価が難しく、関心・意欲・態度、思考・判断での評価がメインになる。
9来年度以降 の実施予定	<p>・バレーボールの授業との組み合わせで体験的に実施することは可能だが、体育理論と組み合わせることで実施することや授業時数を確保すること(バレーボールと組み合わせるので10時間程度は確保)を考慮する必要がある。</p>